

MOBILE SUIT VARIATION **MSV**



Mobile Suit Variations Model Series

1/144 Psycommu System Zaku



<https://gunplastory.com/>



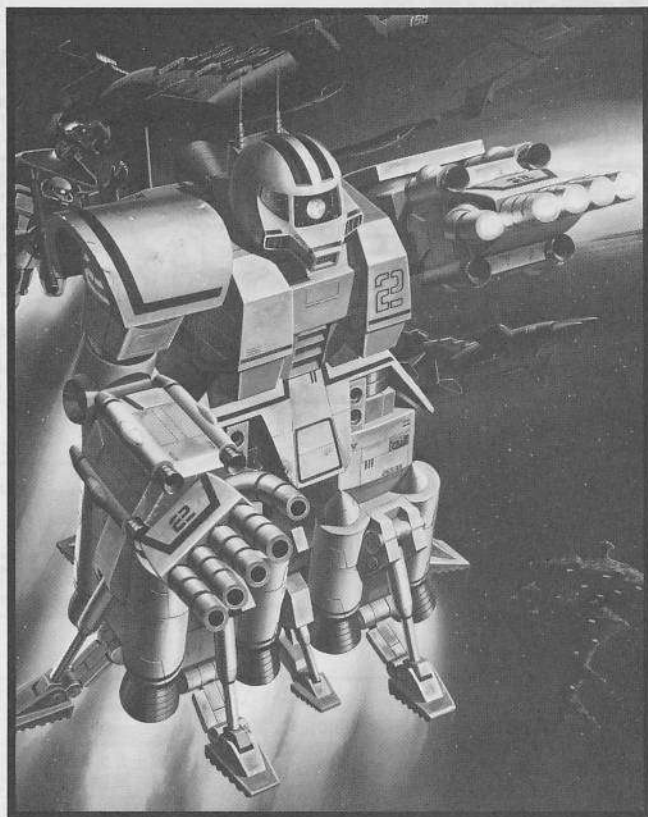
MOBILE SUIT VARIATION

機動戦士

ガンダム

MSN-01 PSYCOMMU SYSTEM ZAKU

● MSN-01 高速機動型ザク



1/144 SCALE モビルスーツバリエーション

BAN
DAI

BANDAI

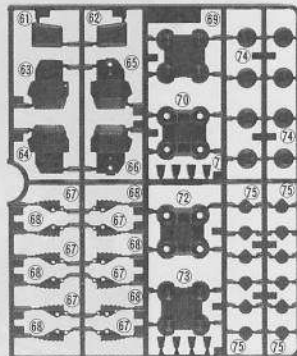
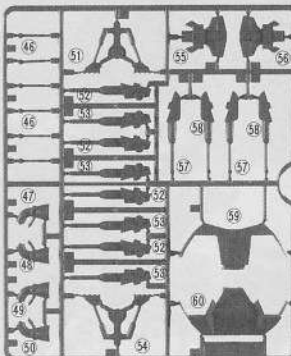
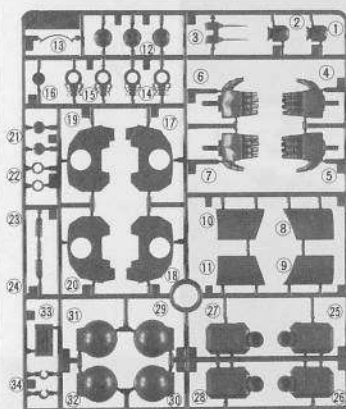
**注 意****必ずお読みください**

- とがった部品がありますので、8才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 接着剤は、閉めきった室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

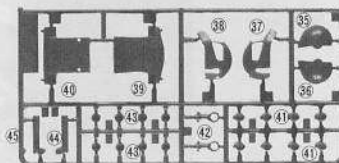
《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 矢印の矢印(→)は接着するところ、点線の矢印(---)は接着しないところです。接着するところは×印がついています。

このキットには、接着剤は入っておりません。プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

《部品図》 [使用材質] <成形品> (スチロール樹脂: PS)

■デカル(マーク)……1

**《お買い上げのお客様へ》**

部品をこわしたり、なくした時は「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。)にて下記までお申し込みください。代金は、部品代(1個40円×個数)+郵送料(120円)です。為替証書は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じることがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご購入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12 TEL054-208-7520

For Japanese use only.**部品注文カード**

'84.05/01345-600

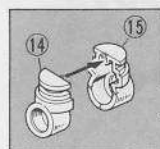
機動戦士ガンダム MSV
1/144 高速機動型ザク

必要な部品の記号・番号・数量を書く

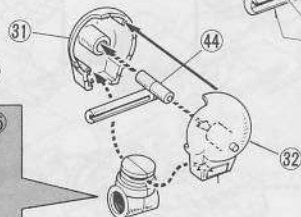
●注文された理由(○で囲む)(こわした・なくした)
日中ご連絡可能な電話番号

1

- 先に(14)を(15)に接着します。
- (14)(15)と(44)をはさんで、(32)を(31)に接着します。



肩

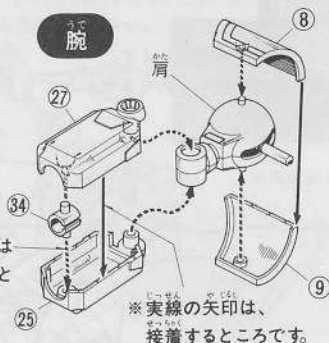
(44)
(45)

ご注意!!

※一段高くなっているところは削らないでください。

※点線の矢印は接着しないとこ
ろです。

腕

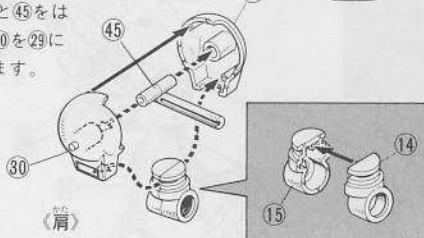


※実線の矢印は、
接着するところです。

2

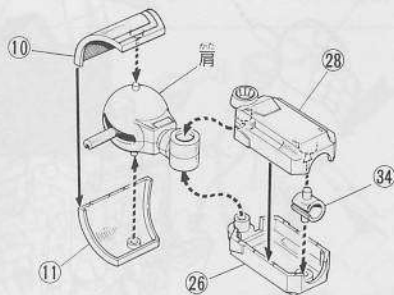
- 先に(14)を(15)に接着します。

- (14)(15)と(45)をはさんで(30)を(29)に接着します。



肩

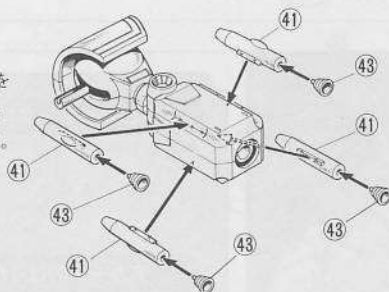
腕



3

- 腕に各部品を接着します。

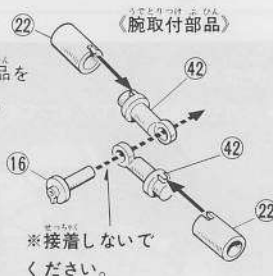
★2個作ります。



4

腕取付部品

- 腕取付部品を作ります。



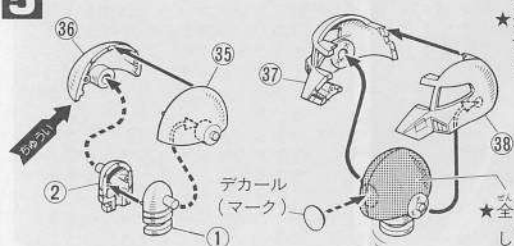
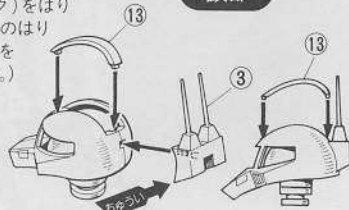
※接着しないで
ください。

5

- ★先に(35)(36)を黒く塗り、デカール(マーク)をはります。(デカールのはりかたのところにみてください。)

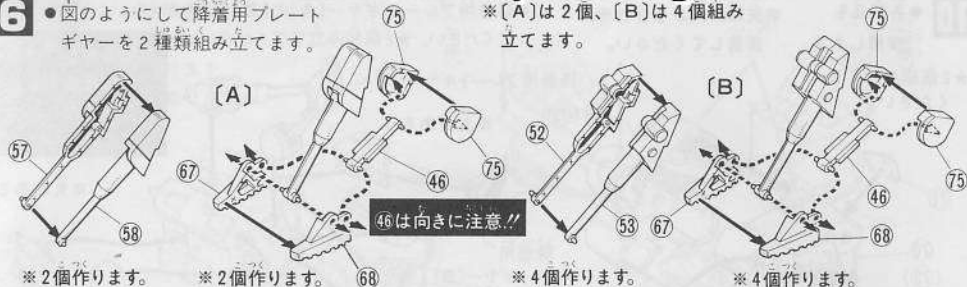
★全体つや消し黒で塗る。

頭部

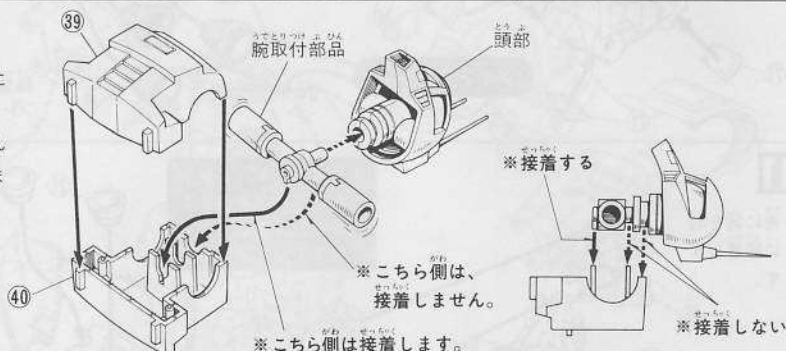
デカール
(マーク)

- 6** ●図のようにして降着用プレートギヤを2種類組み立てます。

※[A]は2個、[B]は4個組み立てます。



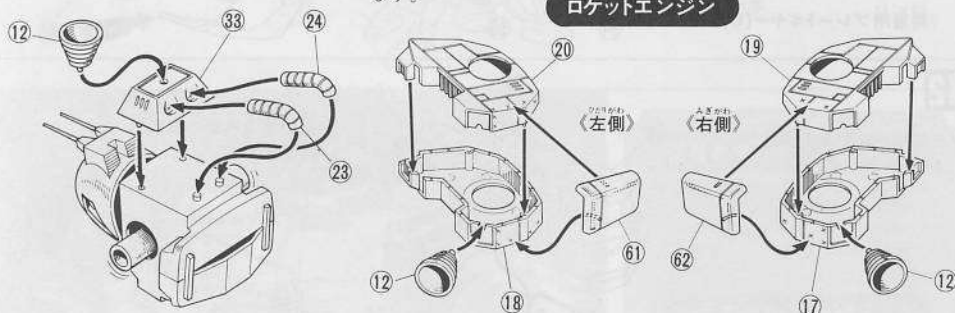
- 7**
- 頭部を腕取付部品にはめこみます。
 - 腕取付部品をはさんで③⑨を④⑩に接着します。



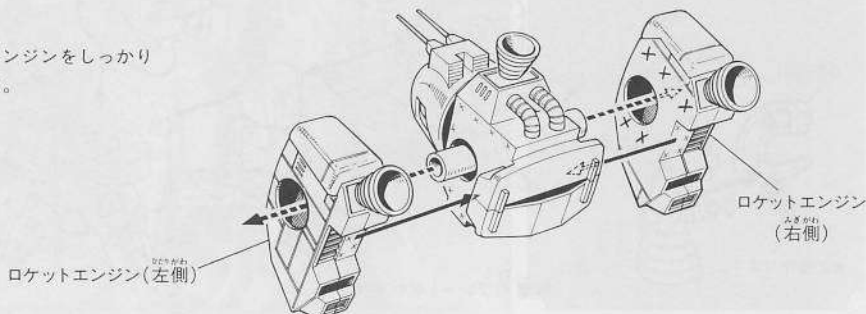
- 8**
- 先に②⑩を⑧⑪に接着します。

- 先に①⑨を⑦⑫に接着します。

ロケットエンジン



- 9**
- ロケットエンジンをしっかり接着します。



10

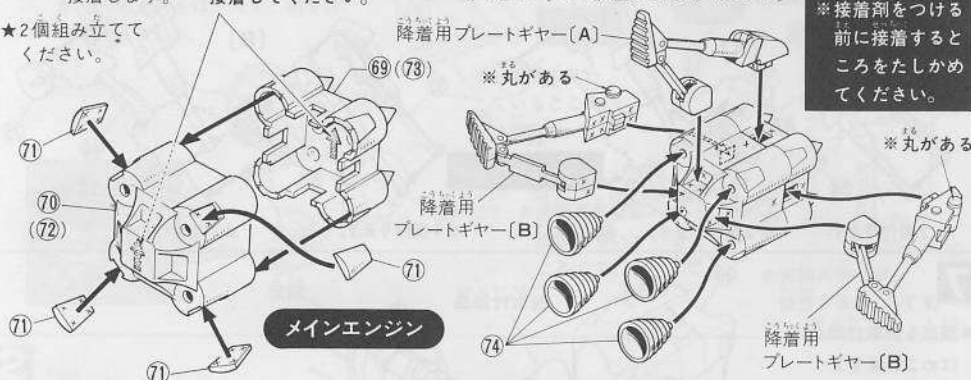
●各部品を
接着します。

※矢印の向きを合わせて
接着してください。

●降着用プレートギヤー[A]と[B]をまちがえないようにし
てください。★2個組み立ててください。

※接着剤をつける
前に接着する
ところをたしかめ
てください。

★2個組み立て
てください。

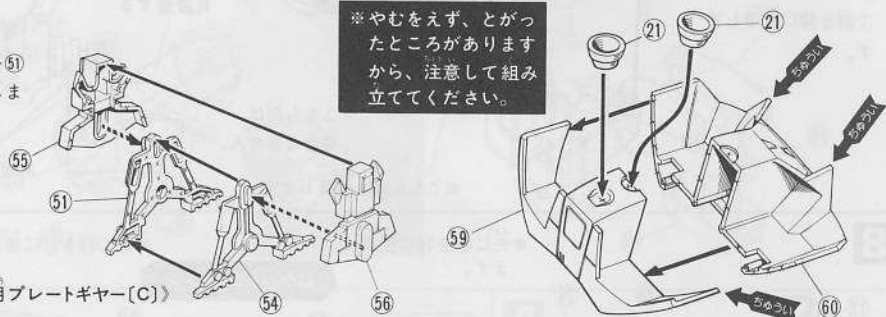


11

●先に(54)を(51)
に接着しま
す。

※やむをえず、とがっ
たところがありま
すから、注意して組み
立ててください。

《降着用プレートギヤー[C]》



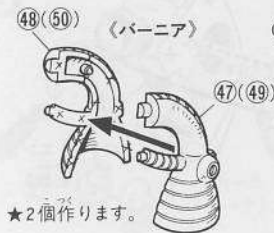
12

●先にパーニアを2個作り
ます。

※丸いところが内側に
なります。

メインエンジン

《パーニア》



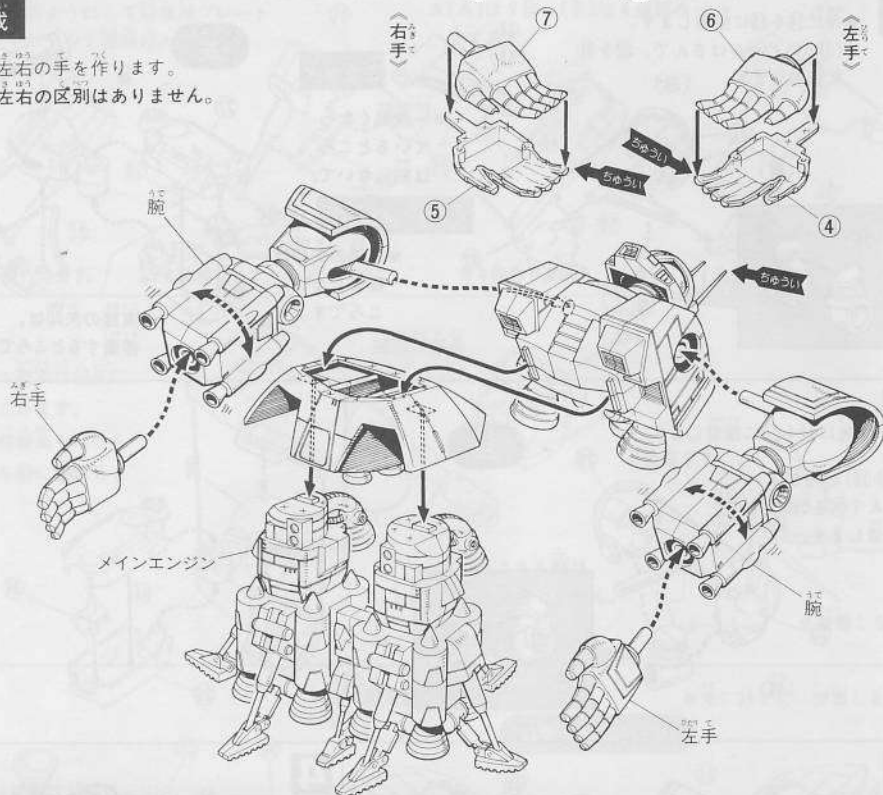
降着用プレートギヤー[C]

★2個作ります。

完成

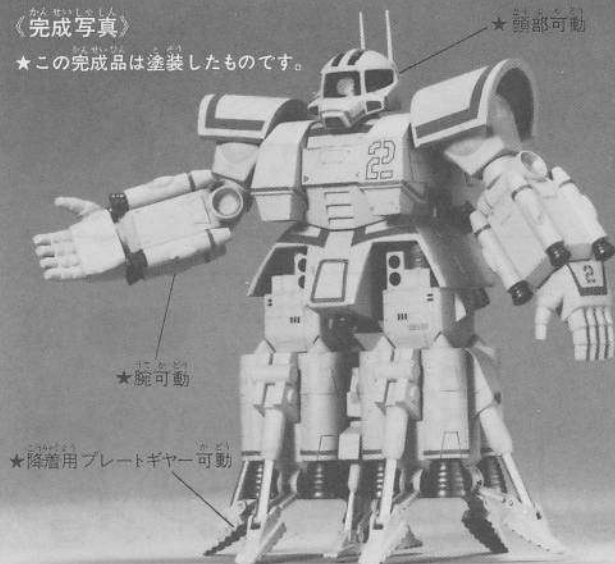
●先に左右の手を作ります。

※腕に左右の区別はありません。



《完成写真》

★この完成品は塗装したものです。



塗装とマーキングについて

★塗装の色分け及びデカール（マーク）を貼る位置については、付属の「メカニカル・ファイル」に表示してありますのでご覧ください。

デカールののはりかた

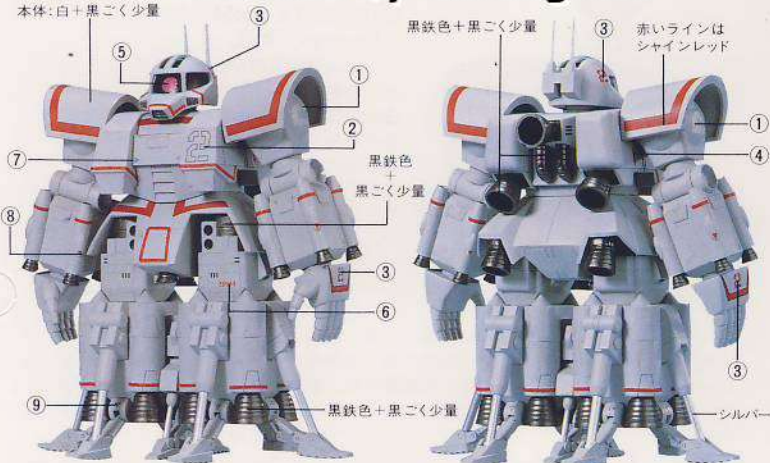
1. デカール（マーク）を貼る場所の汚れ、油気を、ぬらした布でよくふきとってください。
2. 貼りたいデカールをハサミで切り取り、貼る場所を確かめてから、水に5秒～10秒ほどつけて引き上げます。
3. デカールを台紙からずらしながら貼ります。
4. やわらかく、水気をよく吸う布でデカールをそっと押え内側の気泡を押し出ししながら水分をとります。
5. 貼ったあとはデカールが乾くまでさわらないでください。

Scanned by Dalong.net

MSN-01 ザク

本体：白+黒ごく少量

黒鉄色+黒ごく少量

赤いラインは
シャインレッド

■MSN-01 SYCOMMU SYSTEM ZAKU

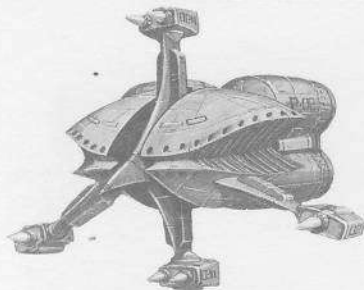
MS-06ザクIIシリーズは数々の局戦用派生型、研究母体を生んだが、サイココミュニケーションシステムを使用するMS-16（MSN-02ジオング）を開発するためのテストベース機として製作されたのがMS-06Zである。そして製作された3機の内2号機は改修が加えられ、腰内部より下の歩行ユニットが取りのぞかれ、代わりにむき出して4本を1本にまとめた大ロケットエンジンを2本、計8基搭載したモビルアーマー並みの機動力を持つタイプに生まれ変わった。これがMSN-01 高速機動型ザクである。但し試験時のわずかな時間のみの使用に耐える物で、燃料搭載量の問題も含め、一般的とは言えなかった。しかしながら、次代を担うニュータイプへのさきがけとしての期待を背負った MSN-02 ジョングを開発する上で貴重なデータ収集の責任を十分に果たしたといえる。



■MSN-01サイコミュザク



■MSN-02ジオング



■MAN-03ブラウ=プロ

■MS-06ZからMSN-02ジオングへ
「ビショップ計画」

ジオン軍は大戦が終末に近づくに至りモビルスーツを主体とする立体戦術も確立化の目度を見た。突撃機動軍司令官であるキシリア=ザビ少将は、出現しつつあるニュータイプを戦線に投入すべく、独自の研究機関「フラナガン機関」を運営していたのは、今日知られている事象である。

可能性を優先するジオン本国としてはニュータイプの持つ脳波誘導の特性を兵器に活かすために、とりあえずはモビル

スーツを母体に無線誘導のビーム兵器を搭載する事を試みた。有視界戦が全てを支配していた戦争だっただけに、旧態の電子兵器戦に匹敵する戦術を導入できるからである。計画案はMS-16Xとして通案され、集大成モビルスーツとして「ジオング」という呼称が先行してつけられた。試作に際しては、直接MS-16には着手はされず、当面のデータ収集とビーム兵器のテストを兼ねて、3種の母機が用意されたと言われている。一つは中型戦闘機、一つはMAN-03ブラウ=プロ、残る一つはMS-06F ザクIIを母体とするMS-06Zが、この計画にあてられた機体である。

破壊力を優先した「モビルアーマー」のコンセプトに従い、MAN-03には6基のビーム砲が装備され、機体自体は立体攻撃力を考慮して3機に分離が可能とされていた。そして、作戦行動時間の延長と、本体の航続性能を増すため、大きさは中型の戦闘機クラスにまでなっていた。試作機は3機が作られたが、パイロットのレベルを均一に保つ事が出来ずに戦闘で失なわれている。

MS-06Zとして製作されたモビルスーツはMAN-03と同時に開発が進められていたが、冷却サーキットとビーム砲の小型化に遅れをとり、実機が完成したのはブラウ=プロよりも10日後の事であった。試作された3機のZタイプは、グラナダより実験艦レムリアに搭載され、コレヒドールへと運ばれて、稼動試験が行なわれた。このZタイプは、Fタイプこそベースにしているが、使用されたのはメインフレームぐらいの物で、頭部を除いてはザクの印象は無い。腕はビーム砲の支持ユニットとして使われ、ひじから先にはMS-16X用の規格による腕型ビーム砲が取り付けられた。そのため外観上は腕の異常に大きな、マウンテンゴリラを思わせる物となった。

このMS-06Zのプロジェクトは、「ビショップ計画」と名付けられ、コレヒドールに駐留してデータ収集をくり返した。しかしながら、パイロットの能力不足と機動力に問題があったため、その性能を十分に引き出す事は不可能であった。そのため、2号機はグラナダの工廠へ戻され、高機動時でのサイコミュシステムのデータを取るために、推進エンジンの強化工作が行なわれた。この2号機には、MS-16Xの名称をMSNナンバーへ移すためMSN-01の型式番号が与えられた。これが高速機動型ザクである。機動性だけはZタイプに比べ、はるかに向上したが、増設されたロケットエンジンを喰えるだけの推進剤が搭載できず、最終的には量産できる物とはならず、ジオング開発への捨て石となった。但し、このMSN-01とMS-06Zの2、3号機はア・バオア・クーへ移され戦闘参加した記録が残っている。

●キットデータ ■商品名/MSN-01サイコミュザク(高速機動型ザク) ■スケール/1/144 ■全高118mm ■価格/600円 ■発売/昭和59年5月 ■ボックスアーティスト/石橋謙一 ■KIT No0001345